

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The association of psychiatric comorbidity and use of the emergency department among persons with substance use disorders: an observational cohort study.</p> <p>薬物使用障害のある者での精神疾患合併症と救急外来受診との関連についての観察コホート研究</p>	
執筆者	
Curran GM, Sullivan G, Williams K, Han X, Allee E, Kotrla KJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMC Emerg Med. 2008 Dec 3;8:17.	
キーワード	
物質依存症、精神疾患、救急外来受診	
要 旨	
<p>目的： 精神疾患と物質依存症は救急外来の利用の頻度と関係する因子であるが、それらの関連に注目した研究は少ない。この研究では精神疾患合併症患者の救急外来受診との関連について物質依存症者で検討した</p> <p>方法： 1994年1月から1998年6月までにアメリカ南部の都市部の大規模病院の救急外来を受診して物質依存症と診断された6865名の患者に注目した。患者は物質依存症のタイプ別：アルコール依存(ICD-9=303)、アルコール乱用(ICD-9=305.0)、コカイン使用/依存 (ICD-9=304.2、305.6)、複数の薬物使用 (ICD-9=305.9)に分類された。受診期間に精神疾患合併と診断された場合は精神疾患の合併と分類した。精神疾患合併は、統合失調症、双極性うつ病、うつ病、不安症、認知症(ICD-9コードによる)とした。</p> <p>結果： 物質依存症で精神疾患合併の患者は物質依存で精神疾患の合併がない患者と比較して有意に救急外来平均受診回数が多かった(精神疾患合併 あり 5.2回、SD8.2、なし 2.5回、SD3.7)。頻回外来受診(調査期間中の救急外来受診が4回以上、8回以上、12回以上、16回以上、20回以上)の物質依存症の患者での精神疾患合併のオッズ比は3.0から5.6であった。この関連は物質依存症のすべてのカテゴリでみられた。またコカインとアルコール依存症で強くみられた。</p> <p>結論： この結果は救急外来の費用効果介入を検討する際に役立つ重要な知見である。</p>	